

授業概要

授業のタイトル（科目名） 社会的養護 I (告示等による教科目名) 必修科目（保育の本質・目的に関する科目）		授業の種類 通 信 （講義・演習・実習）	授業担当者 相澤 隆二
授業の回数 15	時間数（単位数） 90時間（2単位）	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]

社会的養護の現状と課題、制度や実施体系等を理解し、児童福祉施設における援助者としての保育士の役割や援助のあり方について必要とするものは何かを考える。

[授業全体の内容の概要]

現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本、制度や実施体系、社会養護の対象や形態、関係する専門職等について学ぶ。さらに社会的養護の現状と課題について考える。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ①社会的養護の歴史を理解する
- ②社会的養護（養育ビジョン）の意義を理解する
- ③社会的養護と児童福祉の関連性を理解する

[実務経験]

社会福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者
障害児・者のサービス管理責任者や高齢者施設での相談員等を経験し、東京都内で保育園、学童保育、放課後等デイサービス、障害児・者の特定計画相談事業および横浜市内で高齢者施設、障害者施設を運営する社会福祉法人の理事長。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 社会的養護の理念と概念
- 2 社会的養護の歴史的変遷
- 3 子どもの人権養護と社会的養護
- 4 社会的養護の基本原則
- 5 社会養護における保育士等の倫理と責務
- 6 社会的養護の制度と法体系
- 7 社会的養護のしくみと実施体系
- 8 社会的養護とファミリーソーシャルワーク
- 9 社会的養護の支援のあり方
- 10 家庭養護と施設養護
- 11 社会的養護に関わる専門職
- 12 社会的養護に関する社会的状況
- 13 施設等の運営管理の現状と課題
- 14 被措置児童等の虐待防止の現状と課題
- 15 社会的養護と地域福祉の現状と課題

[使用テキスト・参考文献]

新・基本保育シリーズ⑥社会的養護 I
(中央法規出版)
保育所保育指針解説書

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
レポート 1,000字から1,200字
『社会的養護の対象と支援のあり方』
テキスト第9講参考、考察や考え含む

授業概要

授業のタイトル（科目名） 子ども家庭支援の心理学 (告示等による教科目名) 必修科目（保育の対象の理解に関する科目）	授業の種類 通 信 （講義・演習・実習）	授業担当者 伊藤 能之
授業の回数 15	時間数（単位数） 90時間（2単位）	配当学年・時期 2年・前期 必修

[授業の目的・ねらい]

- ・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
- ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
- ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
- ・子どもの精神保健とその課題について理解する。

[授業全体の内容の概要]

保育の心理学の学習を踏まえ、人間の生涯発達過程についての基本を学び、特に児童青年期、成人期、老年期までの発達課題や危機について学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

人間の生涯発達過程及び発達課題上の危機について理解を深める。その上で、実際の支援時に発達心理学の知識を活用できるようにする。

[実務経験]

講師は、子育て支援センターの勤務経験を活かし、実務者の観点から講義を行う。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 乳児期の発達
- 2 幼児期の発達
- 3 学童期の発達
- 4 青年期の発達
- 5 成人期・中年期の発達
- 6 高齢期の発達
- 7 家族・家庭の意義と機能
- 8 家族関係・親子関係の理解
- 9 子育ての経験と親としての育ち
- 10 子育てを取り巻く社会的状況
- 11 ライフコースと仕事・子育て
- 12 多様な家庭とその理解
- 13 特別な配慮を要する家庭
- 14 子どもの生活・生育環境とその影響
- 15 子どもの心の健康に関わる問題

[使用テキスト・参考文献]

新・基本保育シリーズ⑨子ども家庭支援の心理学
(中央法規出版)
子どもとかかわる人のための心理学
萌分書林（参考文献）

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
レポート 1,000字から1,200字
『愛着の形成過程と愛着のタイプについて論じなさい』

授業概要

授業のタイトル（科目名） 幼稚体育II (告示等による教科目名) 選択必修科目（保育の内容・方法に関する科目）	授業の種類 通信・面接 (講義・演習・実習)	授業担当者 山口 智之 丸山 東人 大竹 龍
授業の回数 30	時間数（単位数） (通) 45時間 (1単位) (面) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期

[授業の目的・ねらい]

自らの心身の健康の保持増進を図るとともに、乳幼児の心身の発達段階に基づいた運動遊びの指導力を身に付け、子どもの豊かな育ちを支える力を養う。

[授業全体の内容の概要]

幼児が運動に親しみやすい運動用具を使用した遊びや親子運動遊び、鬼ごっこ、サーキット遊びなどの基本的な運動遊びの理解を深めるとともに、補助の方法や安全確保について実践的に理解する。学生が相互に模擬保育をし合う場を設定し、保育現場での実践力を高める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

公益財団法人日本幼少年体育協会が公認する「幼稚体育指導者検定1級」を取得。学習内容を保育現場の体育活動で、より深い理解度と実践力をもって活用できるようになる。

[実務経験]

公益財団法人日本幼少年体育協会に携わっている。その実績を踏まえ、幼稚体育の指導者の実務者の観点から講義を行う。保育現場で使用できる体育指導ができるように導く。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 (通信) ガイダンス、幼稚体育指導はの心得
- 2 (通信) 幼稚体育指導者検定2級 学習内容の洗練化①
- 3 (通信) 幼稚体育指導者検定2級 学習内容の洗練化②
- 4 (通信) 幼稚体育指導者検定2級 学習内容の洗練化① (リズム体操:解説)
- 5 (通信) 幼稚体育指導者検定2級 学習内容の洗練化② (リズム体操:実演)
- 6 (通信) 幼稚体育指導者検定2級 学習内容の洗練化③ (マット運動:解説)
- 7 (通信) 幼稚体育指導者検定2級 学習内容の洗練化④ (マット運動:実演)
- 8 (通信) 幼稚体育指導者検定2級 学習内容の洗練化⑤ (とび箱:解説)
- 9 (通信) 幼稚体育指導者検定2級 学習内容の洗練化⑥ (なわ:解説)
- 10 (通信) 「生きる力」と「教材分析」
- 11 (通信) 指導案作成①
- 12 (通信) 指導案作成②
- 13 (通信) 指導案作成③
- 14 (通信) 指導案作成④
- 15 (通信) 指導案作成⑤
- 16 (面接) 幼稚体育指導者検定2級 (実技講習)
- 17 (面接) 幼稚体育指導者検定2級 (学科試験)
- 18 (面接) 教科書知識と現場での実例の結びつけ (抽象と具体的の相互変換)
- 19 (面接) 実技① (アイスブレイク、手本として相応しいリズム体操)
- 20 (面接) 実技② (マット運動の指導手順、補助技術、理論と実技融合)
- 21 (面接) 実技③ (とび箱の指導手順、補助技術、理論と実技の融合)
- 22 (面接) 実技④ (なわとびの手本技術、指導手順、補助技術、理論と実技の融合)
- 23 (面接) 総まとめ

[使用テキスト・参考文献]

幼稚体育指導検定公式テキスト
幼稚体育（応用編）

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する

授業概要

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導 I (告示等による教科目名) 保育実習		授業の種類 通 信 ・ 面 接 (講義・演習・実習)	授業担当者 安藤 幸子・大竹 龍 平田 聰美・阿部 アサミ 後藤 智子
授業の回数 23	時間数（単位数） (通) 45時間 (1単位) (面) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]

1. 保育実習の意義と目的を理解する。保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を理解する。
2. 実習の流れと実習の心構えを理解する。
 - ①実習の種類（参観実習・参加実習・責任実習）
 - ②社会人のマナーや、ホウレンソウ（報告・連絡・相談）の重要性
3. 実習の目標・実習課題を理解する。
 - ①実習課題の設定
 - ②指導案の立て方
 - ③実習日誌の書き方等

[授業全体の内容の概要]

実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得をテキスト中心に学び、自分の実習課題を考える。保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

実習の意義、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項、実習の計画と記録について理解する。

[実務経験]

保育士資格、幼稚園教諭資格を持ち、公立保育園での現場経験を活かし、実習に必要な知識・技術について講義及び指導の経験あり。また、保育士に必要なキャリアアップ講座なども行ってきた。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 (通信) 実習の意義・目的を理解する
- 2 (通信) 保育所とは何か、その現状と課題
- 3 (通信) 新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- 4 (通信) 保育所保育指針
- 5 (通信) 保育所の職場構成と連携
- 6 (通信) 社会人のマナー ホウレンソウ（報告・連絡・相談）の重要性
- 7 (通信) 社会人のマナー ホウレンソウ（報告・連絡・相談）の重要性
- 8 (通信) 保育実習の内容と方法
- 9 (通信) 実習の種類（参観実習・参加実習・責任実習）とは何か
- 10 (通信) 実習日誌の書き方
- 11 (通信) 実習日誌の書き方
- 12 (通信) 保育指導案の立て方
- 13 (通信) 保育指導案の立て方
- 14 (通信) 折り紙作成
- 15 (通信) 環境構成図作成
- 16 (面接) オリエンテーション、保育実習について
- 17 (面接) 実習日誌の書き方、添削
- 18 (面接) オリエンテーションの必要性
- 19 (面接) 保育指導案の立て方、記載
- 20 (面接) 児童福祉施設の種別及び特徴
- 21 (面接) プライバシーの保護と守秘義務
- 22 (面接) 課題、自己目標
- 23 (面接) 事後学習、実習の総括と自己評価

[使用テキスト・参考文献]

新 基本保育シリーズ②保育実習
(中お法規)

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する

(レポート) 保育実習において理解しておくべき事項は何か。項目ごとにまとめ、実習にどうつなげるべきか、考えを述べよ

授業概要

授業のタイトル（科目名） 乳児保育 I (告示等による教科目名) 必修科目（保育の内容・方法に関する科目）		授業の種類 通 信 （講義・演習・実習）	授業担当者 山崎 雅子 高橋 良子
授業の回数 15	時間数（単位数） 90時間（2単位）	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。乳児保育における職員間の連携・協同及び保護者や地域の関係との連携について理解する。			
[授業全体の内容の概要] 乳児保育の意義・目的と役割について学修する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容や職員及び地域等関係機関との連携と協働について学修し理解する。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 乳幼児の発達上の特徴など、乳幼児保育の基本的な知識について学び、理解する。 職員及び地域と関係機関との連携と協働について理解する。			
[実務経験] 看護師の臨床経験と保育施設での経験を踏まえて乳児の発育支援を科学的根拠に基づいて保育のプロとしての支援になるよう努力していく。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1 乳幼児保育の意義・目的と歴史的変遷 2 乳幼児および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 3 保育所における乳児保育 4 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 5 家庭的保育・小規模保育等における乳児保育 6 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 7 3歳未満児の生活と環境 8 3歳未満児の遊びと環境 9 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 1 0 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかわり 1 1 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮 1 2 乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義 1 3 職員間の連携・協働 1 4 保護者との連携・協働 1 5 自治体や地域の関係機関等とのれんけい・協働			
[使用テキスト・参考文献] 新・基本保育シリーズ⑯乳児保育 I・II (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) レポート 1,000字から1,200字 「乳児期の発達で注意すべき点と、それに対してどのように保育すべきか」	

授業概要

授業のタイトル（科目名） 保育内容演習・表現 (告示等による教科目名) 必修科目（保育の内容・方法に関する科目）	授業の種類 面接 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 小野寺 美奈 阿部 アサミ
授業の回数 8	時間数（単位数） 15時間（1単位）	配当学年・時期 2年・前期

[授業の目的・ねらい]

子どもの発達を、保育所保育指針における保育の内容（乳児保育、1歳以上3歳未満児、3歳以上児の保育に関する内容とねらいを通して捉え、子どもに対する理解を深めながら具体的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に学修する。保育所保育指針に示す乳児保育の3つの視点や保育における領域「表現」について学修する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

保育の展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に理解する。

保育所保育指針に示す乳児保育の3つの視点や保育の領域「表現」について理解する。

[実務経験]

講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 乳幼児の表現の発達
- 2 保育における領域「表現」
- 3 子どもの表現が生まれる源泉
- 4 表現の基礎としてのこころとからだ
- 5 遊びにおける子どもの多様な表現
- 6 表現された子どもの世界
- 7 子どもの表現と保育者の援助
- 8 子どもの表現が育つ環境

[使用テキスト・参考文献] 保育内容・領域表現 日々わくわくを生きる子どもの表現 (わかば社)	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 面接授業（スクーリング） 授業評価
---	--

授業概要

授業のタイトル（科目名） 保育内容演習・健康 (告示等による教科目名) 必修科目（保育の内容・方法に関する科目）	授業の種類 通 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 伊藤 能之・丸山 東人 後藤 智子・山口 智之
授業の回数 15	時間数（単位数） 45時間（1単位）	配当学年・時期 2年・前期

[授業の目的・ねらい]

子どもの発達を保育内容の視点・領域を通して捉え、子どもの理解を深めながら「健康」について具体的に学ぶ。さらに、保育活動における保育士の役割、周囲の資源活用、保育過程の実際について理解を深める。

[授業全体の内容の概要]

保育内容の視点・領域を関連付けて学ぶことにより、子どもの発達を理解し、健康や安全は生活のための支援方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

健やかな子どもの姿を理解し、健康を考えた生活や活動について具体的に述べ、実施する。子どもの健康の必要性と健康を守る力を育むことについて発表する。

[実務経験]

講師は、子育て支援センターの勤務経験を活かし、実務者の観点から講義を行う。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 保育内容と領域「健康」
- 2 心と体の発達と健康
- 3 乳幼児期の心身の発育・発達
- 4 明るく伸び伸びとした生活とは
- 5 遊びの中で十分に体を動かす
- 6 健康・安全な生活とは
- 7 基本的生活習慣の形成、「食」と健康
- 8 安全な生活、遊具と遊び
- 9 いろいろな遊び（鬼遊び、ボール遊び、なわ遊び）
- 10 よく動く心と体、運動会、水遊び
- 11 園外活動（散歩、宿泊）
- 12 親子で楽しむ遊び
- 13 望ましい食習慣を形成するために（幼児の健康課題とその保障）
- 14 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認
- 15 まとめ

[使用テキスト・参考文献]

保育内容「健康」改訂版
(大学図書出版)

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

レポート 1,000字から1,200字

子どもの年齢を設定し、要項や指針に示されている領域「健康」のねらいや内容と

関連させて健康的な遊び（活動）を考える。

1. 対象年齢（1・2・3・4歳児から選択） 2. 遊びのねらい、遊びの題名、具体的な遊びの容量、保育者としての留意事項を盛り込む

授業概要

授業のタイトル（科目名） 子どもの保健 (告示等による教科目名)		授業の種類 通 信 (講義・演習・実習)	授業担当者 山崎 雅子 高橋 良子
授業の回数 15	時間数（単位数） 90時間（2単位）	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]

- ・子どもの保健、健康について、発達段階をおさえて理解する。
- ・子どもの保健の基本をおさえて、発育・身体機能・疾病との関連・予防・養護について理解する。
- ・子どもの疾病とその予防報及び適切な対応について理解する。

[授業全体の内容の概要]

子どもの保健の意義、子どもの健康と心身機能、発育・発達と保健及び子どもに多い疾病と保育について学習する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

子どもの保健の意義、子どもの健康と心身機能、発育・発達及び子どもの疾病と保育について説明する。

[実務経験]

看護師の臨床経験と保育施設での経験を踏まえて乳児の発育支援を科学的根拠に基づいて保育のプロとしての支援になるよう努力していく。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的
- 2 健康の概念と健康指標
- 3 現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策
- 4 地域における保健活動と子ども虐待防止
- 5 身体発育及び運動機能の発達と保健
- 6 生理機能の発達と保健
- 7 健康状態の観察及び心身の不調等の早期発見
- 8 発育・発達の把握と健康診断
- 9 保護者との情報共有
- 10 主な疾病の特徴① 新生児の病気、先天性の病気
- 11 主な疾病の特徴② 循環器・呼吸器・血液・消化器の病気
- 12 主な疾病の特徴③ アレルギー・免疫・腎泌尿器・内分泌の病気
- 13 主な疾病の特徴④ 脳の病気・その他の病気
- 14 主な疾病の特徴⑤ 感染症
- 15 子どもの疾病的予防と適切な対応

[使用テキスト・参考文献]

新・基本保育シリーズ⑪子どもの保健
(中央法規出版)

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

レポート 1,000字から1,200字

『子どもの健康状態の把握の方法と健全な発育・発達を促進するためにどのようなことに気をつけたらいいか』

授業概要

授業のタイトル（科目名） 子どもの食と栄養 (告示等による教科目名) 必修科目（保育の対象の理解に関する科目）		授業の種類 通信・面接 (講義・演習・実習)	授業担当者 中神 裕子
授業の回数 23	時間数（単位数） (通) 45時間 (1単位) (面) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修

【授業の目的・ねらい】

保護者を含めた支援ができるようになる。また、自らも食を大切にし基本的な食生活をおくれるようになる。

【授業全体の内容の概要】

小児期の成長・発達は、最も著しい時期である。子どもの栄養は、生涯を通じての健康の基盤を確立するためにも重要である。子どもの身体発育や運動機能・精神的発達などを充分に理解し、栄養のあり方を学び、実習を行う。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

子どもにとての食とは、保育のプロとしてのその重要性を理解し、子どもやその保護者を含めた支援ができるようになる。また、自らも食を大切にし基本的な食生活をおくれるようになる。

【実務経験】

約30年間保健センターでの母子保健事業を経験、子どもの発達に合わせた相談や支援を行ってきた経験を活かし、実際の相談事例検討を行いながら理解を深める。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

【通信】

- 1 子どもの健康と食生活の意義 1) 子どもの心身の健康と食生活
- 2 子どもの健康と食生活の意義 2) 子どもの食生活の現状と課題
- 3 栄養に関する基本的知識 1) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と基本
- 4 栄養に関する基本的知識 2) 食事摂取基準と献立作成・調理基本
- 5 子どもの発育・発達と食生活 1) 乳幼児期の授乳・離乳の意義と食生活
- 6 子どもの発育・発達と食生活 2) 幼児期・学童期の心身の発達と食生活
- 7 子どもの発育・発達と食生活 3) 生涯発達と食生活
- 8 食事の基本と内容 1) 保育における食育の意義・目的と基本的考え方
- 9 食事の基本と内容 2) 食育の内容と計画及び評価及び食育のための環境
- 10 食事の基本と内容 3) 地域の関係機関や職員間の連携
- 11 食事の基本と内容 4) 食生活指導及び食を通した保護者への支援
- 12 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 1) 家庭における食事と栄養
- 13 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 1) 家庭における食事と栄養
- 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 1) 疾病及び体調不良の子どもへの対応
- 15 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 2) 食物アレルギー・障害のある子どもへの対応

【面接】2日

- 1 栄養の基本的概念と栄養素についての理解
- 2 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解
- 3 子どもの発育・発達と食生活 1) 離乳期
- 4 子どもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期
- 5 子どもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期
- 6 楽しく食べる子どもに食育の基本内容
- 7 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法
- 8 特別な配慮を要する子どもへの支援

※ 離乳食、幼児食、手作りのおやつ等の調理実習を含む演習を実施する。

【使用テキスト・参考文献】 子どもの食と栄養 演習書 小川雄二編著 医歯薬出版	【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) レポート 1,000字から1,200字 (テキスト第1部) 『幼児期における栄養や食生活の重要性と、その時期におこしやすい食行動の問題点やその対応方法について』 科目試験 1 小児栄養の特徴について理解する 2 アレルギーの症状や対応方法について理解する 3 特別配慮を要する子どもの食と栄養について理解する
---	--

授業概要

授業のタイトル（科目名） 子どもの理解と援助 (告示等による教科目名) 必修科目（保育の対象の理解に関する科目）	授業の種類 面接 (講義・演習・実習)	授業担当者 小野寺 美奈
授業の回数 8	時間数（単位数） 15時間（1単位）	配当学年・時期 2年・後期

[授業の目的・ねらい]

保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解するまでの基本的な考え方を学修し、子ども理解のための具体的な方法を理解する。子どもの意義について理解する。子どもの体験や学びの過程において、子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

[授業全体の内容の概要]

子どもの実態に応じた発達や学びの把握、子どもを理解する観点、子どもを理解する方法、子どもの理解に基づく発達援助について学びを理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

子どもを理解する観点について説明できる。

子どもを理解するまでの基本的な考え方がわかる。

[実務経験]

講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- オリエンテーション、保育における子ども理解の意義
- 子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開
- 子どもの生活と遊び、子どもの集団での育ち
- 保育の環境の理解と構成、環境の変化や移行
- 子どもを理解するための観察・記録・省察・評価
- 職員間の対話、保護者との情報共有
- 発達の課題に応じた援助の関わり
- 試験

[使用テキスト・参考文献]

よくわかる！保育士エクササイズ8
子どもの理解と援助 演習ブック
ミネルヴァ書房

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価

授業概要

授業のタイトル（科目名） 保育内容演習・環境 (告示等による教科目名) 必修科目（保育の内容・方法に関する科目）	授業の種類 通 (講義・ <u>演習</u> ・実習)	授業担当者 相澤 隆二
授業の回数 15	時間数（単位数） 45時間（1単位）	配当学年・時期 2年・後期 必修

[授業の目的・ねらい]

保育園の生活は人的環境、物的環境、自然環境、社会的環境で構成されている。保育者が構成する環境は、子どもの発達に大きな影響がある。子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。具体的な保育場面を想定しながら環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の実際について理解する。

[授業全体の内容の概要]

保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に学修する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

保育の展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に理解する。

保育所保育指針に示す乳児保育の3つの視点や5つの領域「環境」について理解する。

[実務経験]

社会福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者

障害児・者のサービス管理責任者や高齢者施設での相談員等を経験し、東京都内で保育園、学童保育、放課後等デイサービス、障害児・者の特定計画相談事業および横浜市内で高齢者施設、障害者施設を運営する社会福祉法人の理事長。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 保育とは何か
- 2 領域「環境」について
- 3 子どもの生活と環境との関わり
- 4 園の環境構成
- 5 物との関わりと遊び
- 6 自然と環境との関わり
- 7 数量と図形との関わり
- 8 幼児と文字・標識との関わり
- 9 科学との出会い科学とは
- 10 保育と行事
- 11 子どもを取り巻く社会環境
- 12 障害児の保育環境
- 13 環境教育について
- 14 子どもを取り巻く情報メディア
- 15 保育所保育指針【環境】

[使用テキスト・参考文献]

〔新版〕保育内容「環境」
(大学図書出版)

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
レポート 1,000字から1,200字
「子どもにとっての環境と、領域「環境」の捉え方について」

授業概要

授業のタイトル（科目名） 就職研究Ⅰ (告示等による教科目名) 教養科目（外国語体育以外）	授業の種類 通 信 (講義・演習・実習)	授業担当者 丸山 東人・浅田 典男 水口 賢司・榎村 麻理子
授業の回数 15	時間数（単位数） 45時間（1単位）	配当学年・時期 2年・後期

[授業の目的・ねらい]

正しい職業観とともに、早期の就職内定と社会人として必要なマナーの習得を目標とする。

[授業全体の内容の概要]

社会人（ビジネスマン）として必要とされる基本マナー、コミュニケーション手法ならびに組織・業務の基本等ビジネス能力の習得をする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

「働く」意味など、社会人として必要な基本的な職業遂行能力と社会の仕組み・ルールも習得をする。

[実務経験]

大学と専門学校で保育士・幼稚園教諭・学校教員の養成に携わってきた経験や、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 期待される社会人として働くためには
- 2 キャリアと仕事へのアプローチ（キャリアと働くことの基本）
- 3 ビジネス常識①（コミュニケーションとビジネスマナーの基本）
- 4 ビジネス常識②（話し方・聞き方と報・連・相の基本）
- 5 コミュニケーション手法①（仕事への取組み方の基本）
- 6 コミュニケーション手法②（ビジネス文書作成と電話応対の基本）
- 7 コミュニケーション手法③（ビジネス文書作成と電話応対の基本）
- 8 会社関係での付き合い（付き合い方の基本）
- 9 ビジネス文書の基本（文書の作成と種類など）
- 10 ビジネス常識の実践（コミュニケーションとビジネスマナーの実践）
- 11 ビジネス常識の実践②（来客応対と訪問マナー）
- 12 組織と業務（仕事の実践とビジネスツール）
- 13 時事・社会（日本経済の基本構造と変化など）
- 14 仕事の実践とビジネスツール（PDCAとスケジュール管理）
- 15 仕事の実践とビジネスツール（PDCAとスケジュール管理）

[使用テキスト・参考文献]

ビジネス能力検定3級テキスト

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

レポート 50%

科目試験 50%

授業概要

授業のタイトル（科目名） 子どもの健康と安全 (告示等による教科目名) 必修科目（保育の内容・方法に関する科目）	授業の種類 面接 (講義・演習・実習)	授業担当者 山崎 雅子 高橋 良子
授業の回数 8	時間数（単位数） 15時間（1単位）	配当学年・時期 2年・後期

[授業の目的・ねらい]

- ・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
- ・子どもは遊びの中から成長・発達していく存在であることが説明できる。
- ・子ども保健の基本を踏まえ、子どもの心身の状況や発達に即した適切な対応について具体的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

子ども保健の基本的な考え方を理解し、子どもの健康と安全な生活のための支援方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

子どもを取り巻く社会状況・指針を把握し、衛星・安全管理、その実施方法について具体的に述べる。子どもの体調把握の方法や防衛力・健康を守る力を育む。

[実務経験]

看護師の臨床経験と保育施設での経験を踏まえて乳児の発育支援を科学的根拠に基づいて保育のプロとしての支援になるよう努力していく。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 ガイダンス 保健的観点を踏まえた保育環境と援助
- 2 保育における健康と安全と安全管理 ・衛生管理 ・事故防止と安全管理
- 3 子ども体調不良への対応（体調不良・事故が発生した場合の対応、応急手当）
- 4 感染症対策（集団発生、罹患後の対応）
- 5 保育における保健的対応（衛生管理・事故防止と安全管理）
- 6 保育における保健的対応（保育における保健的活動の対応、個別配慮等）
- 7 健康及び安全管理の実施体制（職員間の連携等）
- 8 子どもの健康・安全にかかわる保育者の役割、まとめ

[使用テキスト・参考文献]

子どもの健康と安全
(ななみ書房)

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する

授業概要

授業のタイトル（科目名） 乳児保育Ⅱ (告示等による教科目名) 必修科目（保育の内容・方法に関する科目）	授業の種類 面接 (講義・演習・実習)	授業担当者 山崎 雅子 高橋 良子
授業の回数 8	時間数（単位数） 15時間（1単位）	配当学年・時期 2年・後期

[授業の目的・ねらい]

3歳未満児の発育・発達の過程や特性を理解し、実践的な援助や関わり方を理解する。

3歳未満児の発達を踏まえながら子どもの興味・関心、発達を促す遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。保育所における0・1・2歳児の生活を理解し、具体的な保育を想定した指導案作成の方法を理解する。

[授業全体の内容の概要]

乳児保育の基本を理解した上で、3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際を学修する。乳幼児保育における健康、安全の為の配慮と指導計画について学修する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

3歳未満児の基本を理解し、発育・発達を踏まえた生活と遊びが理解できる。

乳児保育における健康・安全のための配慮と指導計画について理解している。

[実務経験]

看護師の臨床経験と保育施設での経験を踏まえて乳児の発育支援を科学的根拠に基づいて保育のプロとしての支援になるよう努力していく。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 乳児保育の基本
- 2 子どもの生活の流れ・保育環境・援助（0歳児クラス）
- 3 子どもの生活の流れ・保育環境・援助（1歳時クラス）
- 4 子どもの生活の流れ・保育環境・援助（2歳児クラス）
- 5 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
- 6 環境の変化や移行に対する配慮
- 7 長期的な指導計画と短期的な指導計画
- 8 個別的な指導計画と集団の指導計画

[使用テキスト・参考文献]

新・基本保育シリーズ⑯乳児保育Ⅰ・Ⅱ
(中央法規出版)

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する

授業概要

授業のタイトル（科目名） 子ども家庭支援論 (告示等による教科目名)	授業の種類 通 信 講義・演習・実習)	授業担当者 小野寺 美奈
授業の回数 15	時間数（単位数） 90時間（2単位）	配当学年・時期 2年・後期

[授業の目的・ねらい]

子育てを行う家庭が抱える諸課題・諸問題を明確に把握し、各家庭がそれらの諸課題に向き合い、子育てを行うための支援の方法を理解する。

[授業全体の内容の概要]

子ども家庭支援の意義と役割、保育士による子ども家庭支援の意義と基本、子育て家庭に対する支援の体制、多様な支援の展開と関係機関との連携等を理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の意義や保育士等の役割について理解する。子育て支援の基本、子育て家庭に対する支援の体制等について理解する。

[実務経験]

講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 子どもの家庭支援の意義と必要性
- 2 子ども家庭支援の目的と機能
- 3 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
- 4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
- 5 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
- 6 子どもの育ちの喜びの共有
- 7 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
- 8 保育士に求められる基本的態度
- 9 家庭の状況に応じた支援
- 10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
- 11 子ども家庭支援の内容と対象
- 12 保育所を利用する子どもの家庭への支援
- 13 地域の子育て家庭への支援
- 14 要保護児童およびその家庭に対する支援
- 15 子育て支援に関する課題と展望

[使用テキスト・参考文献]

新・基本保育シリーズ⑤子ども家庭支援論
(中央法規出版)

保育所保育指針解説書

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

レポート 1,000字から1,200字

『保育所における子育て支援において、家庭への支援として重要な事柄について』

授業概要

授業のタイトル（科目名） 子どもと文学 (告示等による教科目名) 保育の内実・方法に関する科目	授業の種類 通 信 (講義・演習・実習)	授業担当者 伊藤 能之 高畠 潤子
授業の回数 15	時間数（単位数） 90時間（2単位）	配当学年・時期 2年・後期

[授業の目的・ねらい]

保育者としての表現技術（言語）の基礎的知識・技法及び入門的言語表現教材の開発と実技を修得することを目的とし、演習をとおして児童文化財の活用と展開について考える。

[授業全体の内容の概要]

- ・子どもの発達と絵本、手遊び等に関する知識と技術
- ・子ども自らが児童文化財に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術
- ・子どもの経験や様々な表現活動と児童文化等とを結びつける遊びの展開

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

子どもの発達と児童文化財に関する知識と技術を修得できたか。

[実務経験]

絵本の出版や子ども向けイベントのワークショップ開催の経験から、造形に対する楽しさや、表現の楽しさを伝えていく。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 子どもの育ちと言葉
- 2 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストリーテリング 1
- 3 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストリーテリング 2
- 4 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストリーテリング 3
- 5 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストリーテリング 4
- 6 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストリーテリング 5
- 7 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストリーテリング 6
- 8 子ども自らが児童文化財に親しむ経験と保育の環境 1
- 9 子ども自らが児童文化財に親しむ経験と保育の環境 2
- 10 子ども自らが児童文化財に親しむ経験と保育の環境 3
- 11 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等に結びつける遊びの展開 1
- 12 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等に結びつける遊びの展開 2
- 13 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等に結びつける遊びの展開 3
- 14 学生による言語の展開①
- 15 学生による言語の展開②

【使用テキスト・参考文献】 赤羽根有里子・鈴木穂波編 「新時代の保育双書 保育内容 ことば 第3版) みらい	【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) レポート 1,000字から1,200字 「保育実技において、幼児の言葉を豊かにするための 児童文化財の活用について述べよ」
---	--

授業概要

授業のタイトル（科目名） 子育て支援 (告示等による教科目名) 必修科目（保育の内容・方法に関する科目）	授業の種類 面接 (講義・演習・実習)	授業担当者 安藤 幸子 丸山 東人 渕岡 大起
授業の回数 8	時間数（単位数） 15時間（1単位）	配当学年・時期 2年・後期

[授業の目的・ねらい]

保育士として実践に必要な保育相談支援や子育て支援に関する知識・技術について、事例研究やロールプレイ等を通して自己感知を行う。

[授業全体の内容の概要]

- ・保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、特性と展開を具体的に学ぶ。
- ・保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、特性と展開を理解できる。
- ・保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して理解できる。

[実務経験]

保育士資格、幼稚園教諭資格を持ち、公立保育園での現場経験を活かし、実習に必要な知識・技術について講義及び指導の経験あり。また、保育士に必要なキャリアアップ講座なども行ってきた。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 ガイダンス、子育て支援の特性①子どもの保育とともにを行う保護者支援
- 2 子育て支援の特性②日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
- 3 子育て支援の特性③保護者や家庭の抱えるし苑のニーズへの気付きと多面的な理解
- 4 子育て支援の特性④子ども・保護者の状況・状態の把握、環境構成
- 5 子育て支援とその実際（内容・方法・技術）①保育所、地域の子育て支援等
- 6 子育て支援とその実際（内容・方法・技術）②障害のある子どもと家庭に対する支援、援助
- 7 子育て支援とその実際（内容・方法・技術）③虐待の予防と対応
- 8 子育て支援の展開④社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働

[使用テキスト・参考文献] 新 基本保育シリーズ⑯子育て支援 (中お法規)	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
---	--

授業概要

授業のタイトル（科目名） 社会的養護II (告示等による教科目名) 必修科目（保育の内容・方法に関する科目）	授業の種類 面接 (講義・演習・実習)	授業担当者 相澤 隆二
授業の回数 8	時間数（単位数） 15時間（1単位）	配当学年・時期 2年・後期

[授業の目的・ねらい]

保育士としての実践に必要な社会的養護に関する知識・技術や相談援助の知識・技術について事例研究やロールプレイ等を通して学修する。

[授業全体の内容の概要]

- ・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。
- ・施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。
- ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について学ぶ。
- ・社会的養護に関する相談援助の方法・技術について学ぶ。
- ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・施設養護及び家庭養護の実際について理解し、社会養護における計画・記録・自己評価の実際を理解する。
- ・社会的養護における相談援助の方法・技術、虐待の防止と家庭支援を学修する。

[実務経験]

社会福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者
障害児・者のサービス管理責任者や高齢者施設での相談員等を経験し、東京都内で保育園、学童保育、放課後等デイサービス、障害児・者の特定計画相談事業および横浜市内で高齢者施設、障害者施設を運営する社会福祉法人の理事長

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 ガイダンス 社会的養護における子どもの理解
- 2 社会的養護の内容 ①日常生活支援 ②治療的支援 ③自立支援
- 3 社会的養護の実際 ①施設養護・家庭的養護の生活特性及び実際
- 4 アセスメントと個別支援計画の作成
- 5 記録及び自己評価、保育の専門性に関する知識・技術
- 6 社会的養護における家庭支援、展望
- 7 社会的養護に関する事例研究
- 8 まとめ

[使用テキスト・参考文献] 新 基本保育シリーズ⑯社会的養護II (中お法規)	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
---	--

授業概要

授業のタイトル（科目名） 保育実習 I（保育所） (告示等による教科目名) 保育実習	授業の種類 実習（保育所（10日間） (講義・演習・ 実習)	授業担当者 安藤 幸子・大竹 龍 平田 聰美・阿部 アサミ 後藤 智子
授業の回数 15	時間数（単位数） 80時間（2単位）	配当学年・時期 2年・後期

[授業の目的・ねらい]

1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的理解する。

[授業全体の内容の概要]

保育所実習を通して、役割や機能、計画と記録について学修する。専門職としての保育士の役割と職業倫理について学修する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

保育所実習を通して、保育士を志す者としての自己覚知ができ、継続課題を見出す。

[実務経験]

保育士資格、幼稚園教諭資格を持ち、公立保育園での現場経験を活かし、実習に必要な知識・技術について講義及び指導の経験あり。また、保育士に必要なキャリアアップ講座なども行ってきた。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
- 2 保育所保育指針に基づく保育の展開
- 3 子どもの観察とその記録による理解
- 4 子どもの発達過程の理解
- 5 子どもへの援助や関わり
- 6 保育の計画に基づく保育内容
- 7 子どもの発達過程に応じた保育内容
- 8 子どもの生活や遊びと保育環境
- 9 子どもの健康と安全
- 10 全体的な計画と指導計画及び評価の理解
- 11 記録に基づく省察・自己評価
- 12 保育士の業務内容
- 13 職員間の役割分担や連携・協働
- 14 保育士の役割と職業倫理
- 15 保育所実習のまとめ

[使用テキスト・参考文献]

実習ガイドブック
保育所保育指針

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
実習の評価表等で総合的に評価する。

授業概要

授業のタイトル（科目名） 保育実習 I（施設） (告示等による教科目名) 施設実習	授業の種類 実習（施設（10日間） (講義・演習・ 実習)	授業担当者 安藤 幸子・大竹 龍 平田 聰美・阿部 アサミ 後藤 智子
授業の回数 15	時間数（単位数） 80時間（2単位）	配当学年・時期 2年・後期
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について理解する。 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 保育士の業務内容や職業倫理について具体的理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>児童福祉施設等実習を通して、役割や機能、計画と記録について学修する。</p> <p>専門職としての保育士の役割と職業倫理について学修する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>保育所実習を通して、保育士を志す者としての自己覚知ができ、継続課題を見出す。</p> <p>[実務経験]</p> <p>保育士資格、幼稚園教諭資格を持ち、公立保育園での現場経験を活かし、実習に必要な知識・技術について講義及び指導の経験あり。また、保育士に必要なキャリアアップ講座なども行ってきた。</p>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり 施設の役割と機能 子どもの観察とその記録 個々の状態に応じた援助や関わり 計画に基づく活動や援助 子どもの心身の状態に応じた生活と対応 子どもの活動と環境 健康管理、安全対策の理解 支援計画の理解と活用 記録に基づく省察・自己評価 保育士の業務内容 職員間の役割分担や連携 家庭・地域社会に対する理解と連携 保育士の役割と職業倫理 施設実習のまとめ 		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>実習ガイドブック 保育所保育指針</p> <p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>実習の評価表等で総合的に評価する。</p>		

授業概要

授業のタイトル（科目名） 子ども理解 (告示等による教科目名) 保育の対象の理解に関する科目	授業の種類 通 信 (講義・演習・実習)	授業担当者 小野寺 美奈
授業の回数 15	時間数（単位数） 90時間（2単位）	配当学年・時期 2年・後期

[授業の目的・ねらい]

- ・子どもの心身の発達段階や各時期の行動特性を学修する。
- ・子どもをとりまく人間関係が成長に大きな影響を与えることを学修する。

[授業全体の内容の概要]

人間発達過程における子どもの発達段階および現代の家庭環境・地域環境に沿った保育や教育について理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ・子どもの心身の発達段階や各時期の行動特性を理解する。
- ・子どもをとりまく人間関係が成長に大きな影響を与えることを理解する。

[実務経験]

講師は、保育士養成校で実習指導業務に携わってきた経験、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 子ども理解から始まる物語
- 2 子ども理解の理論的枠組み
- 3 子ども理解から始まる保育の計画
- 4 子どもの育ちを理解する—発達心理学の視点から—
- 5 子どもの心の機微を理解する—臨床心理学の視点から—
- 6 事例・対話・協働に基づく子ども理解
- 7 子ども理解を深化させる記録
- 8 子ども理解を深める保育者を育てる
- 9 乳児の遊びと生活をとらえ直す
- 10 幼児の遊びをとらえ直す
- 11 障害のある子どもを関係性の観点から理解する
- 12 困った子どもの行動を理解する
- 13 地域・家庭との連携を理解する
- 14 就学前施設での子ども理解の深化
- 15 ①人は、自分以外の心情を理解することができるか
②人は、自分の心情を他者に伝えることができるのか

[使用テキスト・参考文献] コンパス 子ども理解 —エピソードから考える理論と 援助— (建帛社)	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) レポート 1,000字から1,200字 ①共感的理義とは何か ②異年齢保育（縦割保育）の意義について述べよ
---	--

授業概要

授業のタイトル（科目名） 図画工作II (告示等による教科目名) 保育の内奥・方法に関する科目		授業の種類 印 刷 (講義・演習・実習)	授業担当者 高畠 潤子
授業の回数 15	時間数（単位数） 45時間（1単位）	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 選択
[授業の目的・ねらい] 図画工作Iで習得した技術の向上を目指し、創作的表現活動に取り組む。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。			
[授業全体の内容の概要] 「考える・感じる・工夫する」造形活動を支えるための素材を活用した図画工作を学ぶ。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学習する。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 「考える・感じる・工夫する」造形活動を支えるための素材を活用した図画工作の知識、技術を習得する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。			
[実務経験] 絵本の出版やこども向けイベントの工作ワークショップ開催の経験から、造形に対する楽しさや、表現の楽しさを伝えていく。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1 ガイダンス 課題説明	2 新聞紙で折り紙を作る	3 模造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る テーマの決定	4 模造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る 模造紙を貼り合わせる
5 模造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る 作品完成	6 モールアート 基本の作品製作	7 モールアート 複雑な形の作品の製作	8 モールアートからバルーンアートを考える
9 バルーンアート 基本の作品の製作	10 アルミホイルを使った造形 エスキース（下絵）	11 アルミホイルを使った造形 作品の完成	12 紙粘土で作る造形 エスキース（下絵）
13 紙粘土で作る造形 製作完成	14 紙粘土で作る造形 フロッタージュする	15 紙粘土で作る造形 彩色と紙に転写・まとめ	幼体検定で指導有
[使用テキスト・参考文献] 樋口一成編著、幼児造形の基礎 一乳幼児の造形と造形教材一 (萌文書林)		[単位認定の方法及び基準] 2-14の内容から、4作品を制作して提出。 ただし、9のバルーンアートは必須。 (提出方法) 作品を撮影し、メール添付または、郵送。	